

別添 3. JISNAS 会員勧誘活動
(大学訪問報告書)

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 一首都大学東京一

1. 出張期間 平成 22 年 11 月 16 日（火）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

小崎 隆 首都大学東京都市環境科学研究科教授

4. 意見交換

（大学） JISNAS 自体の動きは評価する。

（大学） 個人会員として加入することに支障はないが、団体（学部）としての加入する場合は意思決定のプロセスを踏む必要がある。内部での検討においては、所属部局である都市環境科学研究科と農学との関係性に疑問が出る可能性がある。一方、本大学は国際化への関心は高いものの、具体的な進め方について模索している状況。JISNAS への加入は、国際化の一環とも言えるので、国際局が関心を持つ可能性はある。国際部及び都市環境科学研究科と相談してみたい。

（事務局） 農業・農村開発は多くの学問領域に跨る課題だと認識している。JISNAS は農学系が中心であるものの、環境科学や地域研究も開発課題の解決のためには重要な領域であり、加入いただくことでネットワークとしての価値も高まると考える。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 ー日本大学ー

1. 出張期間 平成 22 年 11 月 17 日（水）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

林 幸博 日本大学生物資源科学部教授

溝辺 哲男 日本大学生物資源科学部准教授

4. 意見交換

(大学) JISNAS への参加については、以前検討が行われたが現在まで会員となっていない。再度、JISNAS 事務局より、正式に大学学部へ参加要請を試みられることを勧める。

(大学) 私立大学の教員は国立大学の教員と比べて、国際協力に従事する際の制約が大きい（例：日本大学生物資源科学部では、開講中の海外出張期間は 2 週間が限度）。日本大学の国際協力への貢献は、ほとんど全てが個人ベースでの対応である。

(大学) アフガニスタン国人づくりプロジェクト（仮称）に関し、日本大学の修士課程に入るためには、日本語力が必要不可欠（授業は日本語で行われる）。研究室レベルでの対応であれば（＝研究生としても受入であれば）対応の可能性はある。

(事務局) JISNAS への加入については是非再度ご検討いただきたい。万が一、団体会員が困難な場合は、まずは、個人会員として加入いただく選択肢もある。

(事務局) アフガニスタン案件に関し、JICA は、留学生が修士課程の授業を受けることができるレベルの日本語力を身につけることは困難との判断から、（英語コースの有無は受入の条件としていないものの）英語による指導を大前提にしている。なお、本プロジェクトでは、修士課程への入学を前提にしているが、本プロジェクトとは別にアフガニスタンを対象とした集団研修の実施も検討している模様。念のため、JICA 説明会時に配布された資料を、後日メール送付する。もし、大学として関心ありとのことであれば、JICA 本部担当者が貴大学に説明に来るよう調整する。

(大学) (当方よりコンサル業界や NGO との連携も検討している旨伝えたところ) 農業・農村開発 NGO 協議会 (JANARD) は、インターネットによる活動方針の説明を見

る限り、農業・農村開発分野の NGO の中核的な拠点組織として活用できるのではないかと思われる。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 一宇都宮大学一

1. 出張期間 平成 22 年 12 月 21 日（火）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

茅野 甚治郎 宇都宮大学農学部長

福村 一成 宇都宮大学農学部准教授

4. 意見交換

（大学）JISNAS に加入するに当たり、事前に準備しておくべきことはあるか（例えば、案件を受託するための事務手続きの整備等）？

（事務局）JISNAS への加入に、そのような要件は設定していない。一方、案件を受託するための事務面での整備（受託規程の整備等）は、国際協力に関する一種のノウハウであり、このようなノウハウについてもネットワークで蓄積、共有していきたいと考えている。

（大学）JISNAS 加入の是非については、（年明けになると思われるが）福村准教授がメンバーである委員会の場で前向きに検討の上、組織として決定する予定。

（大学）アフガニスタン案件については、現在各専攻での受入可能人数について確認中。確認後に、大学本部と協議し、受入の可否について決定する予定。当大学の入学試験は 7 月、12 月の 2 回（日本での受験が必要）、入学時期は 4 月であるが、本案件の留学生入学時期は 10 月に固定しているか？

（事務局）修士課程に先立ち、研修生としての受入れ（最大 1 年）も可能な制度であるため、10 月固定ではないと思われるが、当方より JICA に確認の上、回答する。JICA の本案件担当者が貴大学を訪問し、詳細な制度について説明することも可能なため、その必要がある場合は、連絡願いたい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 一千葉大学一

1. 出張期間 平成 22 年 12 月 22 日（水）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

運営委員 板垣 啓四郎 東京農業大学国際食料情報学部教授

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

木庭 卓人 千葉大学大学院園芸学研究科長・園芸学部長・教授

4. 意見交換

（大学）千葉大学は、学生 1,200 名のうち 140 名が留学生であり、英語プログラムも作成しているなど、国際協力には積極的である。松戸には多くの外国人も居住している。ネットワークへの参加の意義は理解したので、参加の是非について内部で検討してみたい。

（大学）先般、カンボジア教育支援基金の枠組みで、カンボジアから協力要請があった。同要請の内容は稲の生産から流通まで含むものであり、同大学は（稲作ではなく）園芸が中心のため対応ができなかった経緯がある。

（事務局）正にそのような場合、一大学では対応は困難でも、ネットワークを活用することにより、途上国の幅広いニーズに对应していくことが可能になる。例えば、このような要請が出された場合、JISNAS 内で公募するのも一案である。

（事務局）アフガニスタン国人づくりプロジェクト（仮称）についても、留学生の講義の一部を他の会員大学に依頼するなどの対応をネットワークとして促進することにより、より多くの留学生受入の可能性が広がると思われる。東京農大では、（アフガン留学生の場合はビザ等で難しい面はあるものの）留学生を途上国の現場に連れて行き、フィールド調査を行うなどの事例もある。

（事務局）留学生に対する大学間共通の教材の開発も効果的であると考えられるところ、今後検討していきたい。JICA では、集団研修に活用できる教材開発を行っているので、このような資料もネットワークとして収集の上、共有することにより、個々の会員大学の留学生等の受入負荷を軽減していきたい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 —東京農工大学—

1. 出張期間 平成 22 年 12 月 22 日（水）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

運営委員 板垣 啓四郎 東京農業大学国際食料情報学部教授

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

国見 裕久 東京農工大学大学院農学研究院長・農学府長・農学部長・教授

4. 意見交換

（大学）当大学にとって、国際協力は大学のミッションの一つであり、留学生受入から途上国での事業実施まで多くの国際協力活動を行っている。事務面を強化するため、国際研究支援室を設置し、留学生受入や現地での事業実施等に関するワンストップサービスを行っている。

（大学）最近の事例としては、草の根技術協力（ベトナム、ウズベキスタン）、農水からの研究支援事業（ブラジル）等がある。また、「日伯モザンビーク三角協力によるアフリカ熱帯サバンナ農業開発プログラム」にも委員会の委員として参加している。

（大学）アフガニスタンからも多くの留学生を受入れている（年間 8 名程度）。アフリカ支援については、ガーナ大学の教育支援を行っていた。なお、「アフガニスタン国人づくりプロジェクト（仮称）」については、特に JICA から話しを聞いていない。

（事務局）東京農工大は、国際協力を非常に積極的であり、経験も非常に豊富である旨承知している。オールジャパンとしてより良い国際協力を実施するため、JISNAS に参加し、その知見を他大学と共有して頂きたい。草の根技術協力事業を受注するに当たり様々なご苦勞をされたとのことであるが、正にそのような経験も国際協力に参加するための一つのノウハウである。大学法人化後、大学間の競争といった側面もあるが、大学間の協働といった視点も非常に重要であるので、是非前向きにご検討いただきたい。

（大学）JISNAS への参加については、機関決定する必要があるところ、内部で検討してみたい。なお、何故 JISNAS 設立時に話しを頂けなかったのか疑問である。

(事務局) 当時の経緯をよく承知していないものの、JISNAS 設立時に、国際協力に積極的である貴大学に話しを持ちかけないことは想定しにくい。多分何らかの理由でその当時にご参加いただけなかったのではないかと思われる。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 —東京大学—

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 14 日（金）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局長 浅沼 修一 名古屋大学農学国際教育協力研究センター教授

3. 訪問先機関・面会者

佐藤 雅俊 東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻教授

小林 和彦 東京大学農学生命科学研究科附属生態調和農学機構長・教授

岡田 謙介 東京大学農学生命科学研究科特任教授

高野 剛 東京大学本部国際交流コーディネーター

4. 意見交換

（大学）ネットワークとして実際にプロジェクトや JICA 研修等を取っていることは評価される。また、京都大学の地域研究コンソーシアムに入会勧誘をしてはどうか。

（事務局）是非勧誘を検討したい。（注：地域研究コンソーシアムは京大東南アジア研究所の研究プロジェクトで、全国 92 組織からなるコンソーシアム（コンソーシアム HP より））

（大学）かねてより日本の学生の海外実地研修が重要であると考えており、ベトナム等の東南アジア諸国のどこかに日本の研究教育拠点を置き、そこを拠点として日本人学生を教育する構想を持っている。JICA に提案したこともある。

（事務局）日本アフリカ農業教育研究拠点構想では、まさにそのような機能も果たせる拠点と考えている。

（大学）アフガニスタンからの留学生受入はできるのではないか。

（大学）JISNAS の活動は今必要な活動と認識しているので、入会については前向きに検討したい。おそらく農学国際専攻では同意を得ることは比較的容易にできると思われるのでまず専攻会議で承認を取ることを考えたい。しかし農学国際専攻単独の活動としておくだけでは十分ではないと思う。研究科長が任期満了で交代する予定なので、次期研究科長が決まってから、農学国際専攻の総意として研究科内の合意が得られるよう図っていきたい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 ー近畿大学ー

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 17 日（月）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

宇都宮 直樹 近畿大学農学部長・教授

4. 意見交換

（大学）私立大学は、最少人数で多くの業務をこなしているのが現状。近畿大学では、個々の教員の中には積極的に国際協力活動を行っている教員もいるが、学部を挙げて行っている訳ではない。

（事務局）そのような状況だからこそネットワークに参加する意義があると思われる。個々の教員・大学が他の教員・大学と連携することにより、これまで関心を持っていても対応できなかったことを実施できる可能性が少しでも高まるのではないか。

（大学）JICA は JISNAS に対しどのように関与、支援しているのか？

（事務局）JICA はアドバイザー機関の一つである。JISNAS の設置当初から様々な形での協力を得ており、私自身も JICA から出向し、事務局次長を務めている。

（事務局）会員には団体会員と個人会員の二つのカテゴリーがある。団体としての参加が難しい場合は、個人会員ベースでも参加も可能であるので、是非ご検討いただきたい。

（大学）国際協力活動を積極的に行っている教員に対し、本日説明いただいた内容について相談してみたい。

以上

農学知的支援ネットワーク（J I S N A S）

大学訪問報告書 —京都府立大学—

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 17 日（月）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

田中 和博 京都府立大学大学院生命環境科学研究科長・教授

4. 意見交換

（大学）京都府立大学は国際協力というよりも、地域貢献を大学の使命の一つとして掲げている。国際協力の観点では、協定大学との交流を重視している。JICA 集団研修の研修員を受け入れたこともあるが、基本的には教員個人ベースでの対応である。かつては一定期間在籍すると一年間自由に研究することが認められる制度（サバティカル制度）が存在したが、現在そのような制度はなく、海外まで出かけて国際協力を行うことは難しいのが実態。また、京都府立大学には留学生会館がないため、研修員受入事業においても、主体者となって実施することは難しい状況。

（事務局）国際協力活動の形態は多様であり、大学の国際協力への関与のあり方も様々である。従って、大学のネットワークへの参加意義やネットワークの活用方法も様々であると思われる。

（大学）ネットワークに参加し、様々な要請に対応していく場合、大学にとっての追加的な業務負荷に対し、経費面も含めてどのようなサポートを得られるのか明らかにされる必要がある。総会での議決に関するルール等はあるか？

（事務局）会則に規定されている。名古屋に戻り次第、会則を送付する。

（大学）今日説明いただいた内容を研究科の教員に知らせ、検討する。ある程度の人数の教員が関心を示せば団体会員での加入も可能であるが、そうでない場合は、組織としての加入は困難なため、個人会員としての加入を検討したい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 —長崎大学—

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 19 日（水）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

中田 英昭 長崎大学大学院生産科学研究科長・教授

萩原 篤志 長崎大学大学院生産科学研究科教授

富田 明子 長崎大学国際連携研究戦略本部兼国際健康開発研究科特任教授

4. 意見交換

（大学）農学に水産分野も含まれているとの説明だが、英語名称 (Agricultural Sciences) から水産が含まれていることを（特に相手国側から）イメージしにくい。水産学部の参加が限定的であるため、他大学との連携の観点からはネットワークから得られるメリットが低いように感じる。

（事務局）確かに現時点では農業分野と比べて水産分野の団体会員が少ない状況である。それ故に、貴学部も含め水産系の学部からの参加をお願いしたい。

（大学）JICA と JISNAS との関係は？また、会費は当面の間無料とのことだが、ネットワーク運営の財源は何か？

（事務局）JICA は JISNAS のアドバイザー機関である。外部資金の獲得という観点では、JICA は主要な事業の資金源の一つである。JISNAS の運営費については、文科省の国際協力イニシアティブ事業からの資金的支援（受託）の他、農学国際教育協力研究センターの予算が一部充当されている。

（大学）競争的資金の獲得の面では、会員大学間は競合関係でもあると思われるが、その点を JISNAS としてどのように考えているのか？また、JISNAS の恩恵を得ているのは、名古屋大学自身であるとの印象を持っていた。

（事務局）JISNAS は会員大学の組織であり、名古屋大学は会員大学の一つと位置づけられる。ただし、文科省の指導を得て、名古屋大学農学国際教育協力研究センターが設置され、同センターがネットワーク構築を提案してきた経緯があることから、当面の間同センターが JISNAS の事務局を担うことになった。会員間の「競合」はあり得るが、「協働」の視点も重要であり、そのバランスを取る必要があると考える。

- (大学) 長崎大学では、国際連携研究戦略本部を中心に国際化を進めているところであるが、大学内の国際化と JISNAS との関係をどのように理解したらよいか？
- (事務局) 大学内の国際化と大学間のネットワーク化は、前者は学内での分野横断的な取り組みであり、後者は大学を跨いだ分野毎の取り組みである。双方とも重要な取り組みであり、補完的な関係と考える。
- (大学) 水産学部と環境科学部を母体とした大学院を 4 月から設置する予定であり、現時点で JISNAS への参加を検討、決定することはタイミング的に難しい状況。国際連携研究戦略本部の助言を得つつ、4 月以降の新しい体制で検討したい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 —佐賀大学—

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 19 日（水）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局長 浅沼 修一 名古屋大学農学国際教育協力研究センター教授

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

野瀬 昭博 佐賀大学農学部長・教授

光富 勝 佐賀大学農学部教授

4. 意見交換

(大学) 佐賀大学では 15 年以上前から、農学研究科と工学系研究科が母体となった地球環境科学特別コース（10 月入学）を設置（平成 7 年 10 月）している。同コースは英語で授業を行う特別コースで、農学系は修士課程、工学系は修士および博士課程までである。同大学全体では、320 名の留学生を受け入れ、留学生センターを整備し、日本語教育も行っている。アフガニスタン留学生の受入の可能性もあるので検討したい。

(事務局) アフガニスタン留学生の受入の可能性が旨 JICA の案件担当部署に連絡する。案件の詳細については、JICA の案件担当部署より連絡するよう調整するので、是非前向きにご検討いただきたい。

(大学) このネットワークはどのように構築されたのか？農学国際教育協力研究センターの人材データベースを活用したのか？

(事務局) 国際協力に関心を有する大学、教員を対象に、これまでの人的な繋がりをもとにメンバーを勧誘した。

(大学) 留学生の受入も必要だが、日本の学生を対象とした海外実地研修も重要である。ただし、途上国に学生を連れていく場合は、セキュリティの問題があり苦慮している。

(事務局) 日本アフリカ農業教育研究拠点構想が実現すれば、この拠点を活用することも一案である。

(大学) 地球環境科学特別コースには社会科学系（社会学、地理学、農村開発等）の人材もいる。最近の途上国に対する協力は、特定分野だけでなくトータルでみる必要が高く、こうした人材も貴重だと考える。JISNAS の意義等については理解

したので、学内で検討したい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 —山口大学—

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 20 日（木）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

山内 直樹 山口大学農学部長・教授

横山 和平 山口大学農学副部長・教授

4. 意見交換

（大学）山口大学には JICA 関係者がおり、国際協力に関する様々な支援を受けている。大学内での国際協力推進と JISNAS との関係をどう理解したら良いか？

（事務局）各大学では、JICA からの支援の有無に拘わらず、大学の国際化を進めていると認識しているが、JISNAS は農学分野における大学間の連携強化を目指している。国際協力に関する大学内での学部横断的な取り組みと特定分野における大学間の連携強化は、補完的な関係であり、双方対立するものではない。

（大学）総会等の会議への参加旅費は自己負担とのことだが、参加しなければならない会議は多いか？

（事務局）総会は基本的には年 1 回の開催であり、通常業務はメールベースで対応している。

（大学）名古屋大学の農学国際協力研究センターと JISNAS との関係は？また、文科省とはどのような関係か？

（事務局）JISNAS は会員大学により運営される組織であり、農学国際教育協力研究センターは、当面の間 JISNAS の事務局を担うことになっている。分野毎にネットワークを設置する方針を掲げている文科省は、そのモデル的な取り組みである JISNAS に対し、立ち上げ当初から資金面を含めた協力を行ってきた。

（大学）博士課程の留学生受入に関し、山口大学の場合、連大があるので独自に対応することは難しい側面がある。また、JISNAS の対象分野・範囲は、（農村開発的な）現場での活動だけでなく、より生命科学の領域（例：微生物）も含まれているのか？

（事務局）ネットワークにおける個々の会員大学の関与のあり方は多様である。他の会員大学からの様々な協力依頼に対し、会員大学はそれぞれの事情に応じて可能な

範囲で協力することが期待されているが、逆に言えば、協力要請に必ず応えなければならない訳ではない。

(大学) JISNAS の意義等については理解したので、内部で検討したい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 一島根大学一

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 21 日（金）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

谷口 憲治 島根大学生物資源科学部長・教授

増永 二之 島根大学生物資源科学部・教授

安藤 安則 島根大学国際交流センター副センター長・教授

4. 意見交換

（大学）JISNAS 会員としての義務と権利は何か？また、会費は徴収しないとのことだが、運営費をどのように捻出しているのか？

（事務局）国際協力活動への関心と協力の意志を有していることが広い意味で義務であり、ネットワークを活用できること、総会を通じてネットワークの経営について参画できることが権利である。なお、会員大学が国際協力活動を行う場合、ネットワークの活用により他の大学の協力を得られる可能性がある反面、同様な協力要請を他の会員大学から受ける可能性もある。その際、他大学からの協力要請にどこまで対応するかは、個々の大学の事情次第であり、対応することが必ず強いられるものではない。運営費については、文科省の国際協力イニシアティブ事業の資金的支援（受託）の他、農学国際教育協力研究センターの予算が一部充当されている。

（大学）工学分野でも JISNAS と類似の組織は存在するか？

（事務局）工学系については、豊橋技術科学大学が農学系における名古屋大学農学国際教育協力研究センターと同じ位置づけになるが、大学間の連携組織として運営されている JISNAS と同様の組織は他分野にはないと認識している。JISNAS は他分野に先駆けたモデルケースであることから、文科省より資金面を含めた協力を得ていると理解している。

（大学）学部として加入することに何ら制約はないと思われるが、関連の委員会に諮る必要がある。なお、団体会員と個人会員が併存しても問題ないのであれば、増永教授は団体会員に先行して個人会員としての入会を希望する。

（大学）アフガニスタン留学生受入についても検討したいが、以前アフガニスタンで技

術指導した経験から言うと、研修員候補者のうち戦争で過去に基礎教育を十分に受けることのできなかった方々の学力レベルはかなり低い（中学レベル）と想定されるので、受入教員の負担が大きくなることが懸念される。

（事務局）名古屋に戻り次第、個人会員への入会手続きを行う。アフガニスタン留学生受入案件については、貴大学の留学センターに要望調査等の資料を送付するよう JICA の案件担当部署と調整する。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 —信州大学—

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 24 日（月）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

中村 宗一郎 信州大学農学部長・教授

南 峰夫 信州大学大学院農学研究科機能性食料開発学専攻教授

平澤 真由美 信州大学農学部国際交流特任准教授

桑原 範行 信州大学農学部学務係主査

4. 意見交換

（大学）文科省や JICA からのバックアップもあり、特に会費も徴収していないということであれば、学部単位で入会することに特段の支障はないと思われるので、前向きに検討したい。ただし、教授会に諮る必要があるので、入会の連絡は 2 月又は 3 月になる見込みである。

（大学）JISNAS はどのような経緯で設置されたのか？

（事務局）文科省は分野毎のネットワークの構築を推進し、農学分野については名古屋大学に拠点（農学国際教育協力研究センター）が設置された経緯がある。大学間は競争的な関係でもあるが、協働も重要であるとの認識の下、平成 21 年 11 月に大学間連携の組織として JISNAS が設置され、同センターはその事務局を担うことになった。

（大学）大学は国内大学間の競争だけでなく、国際的な競争にも晒されているので、協働の重要性は高いと認識している。国際交流を一つの大学だけで対応することは難しくなっており、その意味でもネットワークの意義は高いと考える。

（大学）JISNAS への加入が実際に機能するためには、本件担当者（リーダー）の存在がポイントになると思われる。

（事務局）加入の連絡をいただく際は、代表者名とあわせコンタクトパーソンを紹介いただきたい。団体会員とはコンタクトパーソンを通じて情報共有を行い、同コンタクトパーソンから大学内部の関係者に情報共有いただくことを想定している。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 一名城大学—

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 25 日（火）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局長 浅沼 修一 名古屋大学農学国際教育協力研究センター教授

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

大場 正春 名城大学農学部長・教授

磯前 秀二 名城大学大学院農学研究科主任教授

磯井 俊行 名城大学農学部准教授

4. 意見交換

（大学）名城大学として協力できる可能性はあると思われるので、国際交流センターにも相談の上、参加する方向で検討したい。

（大学）団体会員の場合、どの単位での参加が可能か？また、参加資格は大学に限定しているか、それとも農業高校などの参加も可能か？

（事務局）学部単位に限定している訳ではなく、個々の大学の事情に応じて柔軟に対応している。また、団体としての加入が難しい場合は、個人会員として入会いただくことも可能である。参加資格は、農業高校等の加入を検討する余地はあると思われるものの、基本的には国際協力に関心を持つ大学を中心に考えている。

（大学）私立大学では教員数も限られており、業務量の関係から JISNAS からの協力要請にどこまで対応できるか不安がある。

（事務局）ある大学が国際協力活動を行いたい場合、他会員大学の協力を得られる可能性がある反面、同様の協力要請を他会員大学から受ける可能性もある。その際、他大学からの協力要請にどこまで対応するかは、個々の大学の事情次第であり、対応することが必ず強えられるものではない。会員大学が国際協力活動への参加意志を有しているとの前提の下、パートナー探しの機会が従来よりも増すことはネットワークに参加することの一つのメリットである。また、ネットワークに参加することにより、他大学との相互交流を通じて、他大学の先進事例から学ぶことも可能になる。もし必要であれば、貴学の国際交流センターに直接説明に伺うこともできる。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 一岐阜大学一

1. 出張期間 平成 23 年 1 月 27 日（木）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局長 浅沼 修一 名古屋大学農学国際教育協力研究センター教授

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

金丸 義敬 岐阜大学応用生物科学部長・教授

宮川 修一 岐阜大学応用生物科学部・教授

4. 意見交換

（大学）当大学では、国際戦略本部を中心として国際化に努めている。実際には学術交流協定を結んで、学術交流協力などを進めているものの、基本的には教員個人ベースでの国際協力が中心である状況。JISNAS に加入することのデメリットはないと思われるので、入会の方向で検討したい。応用生物科学部内に国際協力等について検討する委員会があるので、まずそこで検討することになる。

（大学）農学分野の範囲は？

（事務局）途上国の抱えている課題の解決に当たっては、学部・学科を跨いだ協力が必要になるケースが多いため（例：農業と環境）、ネットワークの範囲は、農学を基本にしつつも幅広く考える方針である。

（大学）JICA から直接大学に公示案件等の情報が流れることはあるか？

（事務局）公平性の観点から、JICA は特定の組織（大学等）だけを対象に案件情報を提供するようなサービスを基本的には行っておらず、JICA ホームページへの掲載を通じて広く公示している。なお、JISNAS では、農学分野に特化して情報を収集の上（JICA ホームページの案件公示情報は分野毎に掲載されていない）、JISNAS 便り（原則 2 週に一度）を通じて情報提供している。

（大学）アフガニスタンの留学生受入の件についてはまだ承知していない。

（事務局）事務局で把握している関連情報・資料を提供させていただきたい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 ー静岡大学ー

1. 出張期間 平成 23 年 2 月 3 日（金）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

高木 敏彦 静岡大学農学部長・教授

4. 意見交換

（大学）静岡大学では、東南アジアを中心に国際協力活動を行っている。例えば、広島大学が実施している病理関連の業務に、微生物の分野で協力している。また、インドネシア、ベトナム等の大学と協定を締結し、学生の海外実施研修を行うなど、国際協力に関心のある教員も多い。

（事務局）最近 ODA の世界では、アフガニスタンやアフリカへの協力が重視される傾向があるものの、JISNAS の対象地域は、アフガニスタンやアフリカのみならず、アジアを含む途上国全体である。

（大学）本日説明いただいた内容を他教員にも伝え、JISNAS への加入について前向きに検討したい。年度内には検討結果を連絡できると思うので、少しお待ちいただきたい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）

大学訪問報告書 —高知大学—

1. 出張期間 平成 23 年 2 月 15 日（火）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

川合 研兒 高知大学農学部長・教授

片岡 俊弘 高知大学物部学務・課長

嘉数 久子 高知大学教務支援課・物部室長

4. 意見交換

（大学）JISNAS の財源は何か？

（事務局）JISNAS 事務局にかかる経費は、基本的には文科省国際協力事業イニシアティブからの受託費および名古屋大学農学国際教育協力研究センターの運営費交付金で賄われている。一方、会員大学により実施される個々の国際協力事業に関する経費は、JICA、農水省等の外部資金を活用することになる。

（大学）団体会員の区分に関し、高知大学では、教育組織としての農学部および教員組織の教育研究部としての農学部門、生命環境医学部門および黒潮圏科学部門が JISNAS と関連する。学部として加入することに何ら制約はないと思われるが、関連の委員会に諮る必要がある。

（事務局）団体会員の単位は個々の大学の事情に応じて柔軟に対応可能である。団体会員として登録いただく場合、代表者とコンタクトパーソンを指名いただくことにしている。団体会員とのメール等による情報共有は、代表者及びコンタクトパーソンと行い、その後の大学内・学部内での情報共有のあり方は、個々の大学の判断事項と整理している。

（大学）高知大学では、国際支援学コースを開設し、農業開発、地域開発に関する人材育成を行っている。今年で 4 年目となり初めての卒業生が出るが、その就職先等に関する支援を受けることは可能か？

（事務局）そのようなニーズにどう対応していくか、試行錯誤の段階である。事務局では、まずは JICA が運営している PARTNER（国際協力キャリア総合情報サイト）に関する情報共有を進めたいと考えている。

（大学）会費を将来徴収する可能性はあるのか？

(事務局) 現時点では想定していない。将来徴収するか否かは、総会での判断、決定事項になると思われる。

(大学) ご説明を拝聴し、JISNAS の概要をよく理解できた。可能であれば、もう一度お越しいただき、教員に対する説明会をお願いしたい。

(事務局) 旅費等の予算の問題もあるので、事務局内で相談させて頂きたい。

以上

農学知的支援ネットワーク（JISNAS）
大学訪問報告書 —北海道大学（水産学部）—

1. 出張期間 平成 23 年 2 月 22 日（火）

2. 訪問者

農学知的支援ネットワーク

事務局次長 伊藤 圭介 名古屋大学国際部国際企画室特任准教授

3. 訪問先機関・面会者

岡本 純一郎 北海道大学海洋生物資源科学部門資源保全管理学分野・教授

4. 意見交換

（大学）水産学部には国際交流委員会が設置されており、国際協力活動に関する対外窓口になっている。学部として団体会員になる場合は、同委員会で検討し、その後教授会等のプロセスを踏む必要がある。学科単位であれば必ずしも上述のプロセスを踏む必要はないが、「学科」は組織機構上の正式な組織体ではない。いずれにせよ、内部での検討に当たっては、JISNAS に参加し具体的にどのような活動を行うかを明確にしておく必要がある。

（事務局）団体会員の単位は、個々の大学の事情により様々であり、柔軟な対応が可能である。団体としての加入が困難な場合は、個人会員としての登録も検討いただきたい。

（大学）JISNAS の会員資格は何か？また、会員登録までの選定プロセスは？

（事務局）国際協力活動への参加意図を有することが加入の条件である。入会申込いただいた場合、JISNAS 運営委員会の稟議を経て、入会が承認される。

（大学）JICA 公示情報を基に国際協力活動に参加することは実際には非常に困難であり、正式な公示・公募の前段階での案件形成に関与することが重要だと考えている。また、大学では、国際協力に関心を有する人材が限られていること、現地に派遣できる期間は最大で 1 カ月程度であることなどの課題があり、大学の国際協力活動への参加促進のためには、何らかの追加的なインセンティブが必要である。

（事務局）ご指摘の課題は、正に JISNAS 発足の経緯でもある。JISNAS は、（国際協力実施機関による公示・公募段階の）案件形成段階にも積極的に関与している。また、国際協力への参画に関する大学からの要望、コメント等を取りまとめ、文部科学省や JICA に提言する活動も行っている。

(大学) 個人的には、日本人学生の国際化が重要な課題であると考えている。国際協力活動にヒューマンイズムの精神だけで参加することは大学組織としては困難であるが、大学の本来業務の一つである「教育」としての「日本人学生の国際化」を例えば JICA プログラムの中に組み入れることが可能であれば、大学としての国際協力活動への参加が促進されると思われる。また、「共同研究」という表現が頻繁に使用されるが、途上国との間で、本来の意味での「共同研究」は途上国と日本との間の技術レベルの格差により成立しにくく、その用語の使用はミスリーディングな面がある。

以上